

プチジャン神父(1829~1884)



Collection Christian POLAK

1864年に日本に赴任したパリ外国宣教師会のプチジャン神父(Bernard-Thadée Petitjean)は、落成間もない大浦天主堂において浦上村山里の住民・杉本ゆりによる信仰表明を受けた人物としてその名が知られる。1867年に起こった浦上四番崩れの際には江戸幕府や明治政府の姿勢を強く批判・抗議した。

彼は日本における最前線の布教拠点となった大浦天主堂から、信徒発見の奇跡及び弾圧の様子を詳細に報じることで、欧米諸国から明治政府に対してキリスト教禁教政策の転換を迫らせることに成功。その後も亡くなるまで日本でのキリスト教の布教に尽力した。